

2月16日

テーマ：神の言葉は両刃の剣よりも鋭い

聖書箇所：ヘブル人への手紙4章1節～13節

◆今日のみことば

神のことは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。

ヘブル人への手紙4章12節

◆メッセージ

最近、我が家の男の子たちは戦国時代を背景にした大河ドラマにはまっています。侍の真似をしたり、時には忍者になったりして楽しんでます。プラスチックのおもちゃですが、侍の立派な剣も持っています。本物そっくりで、格好良いのですが、これが本物だったら、本当に人のいのちを奪う恐ろしいものだなとも思います。

聖書は「神のことは両刃の剣よりも鋭い」と言っています。剣は恐ろしいものですが、人や物を斬ることはできても、人の心や思いを殺すことはできません。しかし、神さまのみことばは剣どころではなく「たましいと霊も、関節も骨髄の分かれ目さえも」刺し通します。

聖書はなぜ、こんなにも恐ろしい例えで、神さまのことはを説明しているのでしょうか。それは、神さまの御言葉には力があって、人を変えることができることを説明するためだけではなく、「神の安息に入る約束（1節）」、つまり、イエスさまを信じて、罪を悔い改め、天国の約束を持たなければ、すべての人は神さまの前で、隠れおおせることができず（13節）、たましいと霊を刺し通す神さまのことはにより、厳しい裁きを受けなければならないことを強調するためです。

もう一度12節を読んでみると、「神のことは生きていて、力があり」との説明が始まっています。剣は、いのちを奪うため、滅ぼすためのものですが、神さまのことは、「生きていて」、「いのち」があり、私たちに「その永遠のいのち」を与えてくださるのです。

神の御子、イエスさまを受け入れた人にとって、神さまのことは「いのち」であり、「力」です。私たちが、今、このようにイエスさまを信じ、神さまのことはを聞き、礼拝できることを感謝し、この恵みを多くの人にも伝えていきましょう。

◆お祈り

「神さま。いのちのことはを授けてくださりありがとうございます。いのちのことはを多くの人々に証しできますように助けてください。」



こま いさんふん  
(高麗聖書教会牧師 李相勲)